

京極読書新聞 <第81号>

発行日 平成28年8月1日(月)
京極町生涯学習センター湧学館

京中生に インタビュー

2016・第4回

夏の木陰で読書の毎日。
心はとってもリラックス <編集部>

森口 翔太くん(3年)「頂点への道」 新谷保人(湧学館司書)

新谷 森口くんは小学生時代からクロスカントリースキーで有名な人なので、テニスの錦織圭選手の本で読書感想文というのは少し意外でした。

森口 僕は錦織圭選手の、世界の頂点をめざす姿を尊敬しています。ランキングが上がり世界の頂点が近づくにつれて、試合がテレビに映る回数が増え、より頂点への近づき方が誰にもはっきり見えるようになってきたと思います。

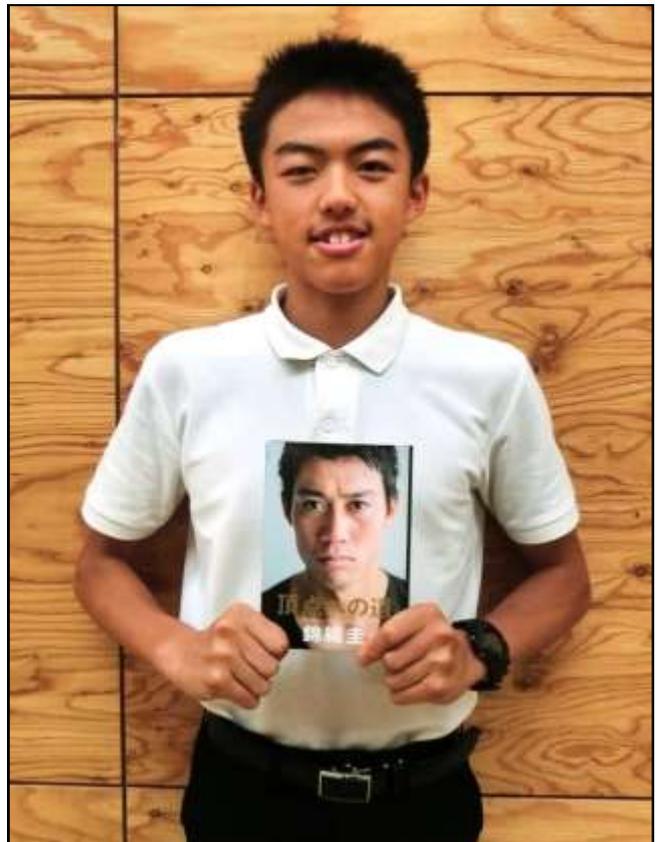
新谷 小学六年で「夢は世界チャンピオンになることです」と作文に書いた人ですからね。

森口 五歳でテニスを始めて、その小学六年の時には全国規模の大会で優勝しています。十三歳でプロになるために米国へ留学。思いつきで夢を語っているのではなく、本当に世界チャンピオンになるために必要な事をその時その時でやっていると思います。

新谷 森口くんがクロスカントリー競技を始めたのは何歳くらい？

森口 三歳です。競技は楽しく、好きだったため、たくさん練習していたのを覚えています。

新谷 へえ、すごいや。今日はクロスカントリー競技についてもいっぱい話を聞こうと思っています。



「頂点への道」 錦織圭、秋山英宏／著
(文芸春秋, 2015)

新谷 まず、競技の質のちがいから。錦織選手はシーズンになると毎週のように試合をしています。クロスカントリーにもそれはあるのですか。

森口 そうですね。体調のピークを冬場に持って行くのは当然ですが、練習自体は雪のない夏場から始まっています。一週間の内に一日の休養を入れる形で続けて、その最初のピークを中体連の試合の頃に持って行きます。そこから全道大会へ、全国大会へと調子を上げて行くわけです。

新谷 その大会なんですけど、クロスカントリーはどんどん開催地が変わりますよね。

森口 そうです。羊蹄ジュニアクロスカントリーといったレベルならば、開催地が京極だろうとニセコだろうとそんなに雪質がちがうわけではないので問題はないのですが、全道、全国大会となってくると開催場所の研究は欠かせないものになってきます。新潟の雪、福島の雪、青森の雪、みんなちがいます。使うスキーも戦術もとことん考えなければなりません。

新谷 コーチということでしょうか。錦織選手にはいつもジョコビッチという大きな壁が立ち塞がっていますが、コーチにマイケル・チャンを迎えてから、なにか劇的にテニスが変わったように思います。しぶとく負けないで打ち返すテニスというか。

森口 コーチは大きいです。毎日の体調管理から試合のメンタル・戦術までのすべてに関係しています。また、ジョコビッチのような大きな壁は絶対に必要だと思います。勝ってばかりいる選手には進歩がありません。目標がありません。

新谷 もうひとつ、クロスカントリーで面白いところを発見しました。全国大会を見ると、男子・女子、小学1年生から中学3年生まで全学年が階級別に分かれているのに、中学生の後は19~49歳の「成年」という階級ひとつになってしまうんですね。これって、すごくないですか。サッカーだって、野球だって、高校~大学~社会人とそれぞれのレベルの広がりがあると思うんだけど、クロスカントリーの「19~49歳」という括りにはびっくりしてしまいました。

森口 体力的に優っている社会人が優勢であることは他のスポーツと同じなのですが、クロスカントリーの場合、時々、爆発的な力を持った高校生が出現することがあるんです。そういう選手は「19~49歳」という無差別級みたいな環境でもまれて行くわけで、ぐんぐん世界レベルまで力が伸びて行くことがあります。

新谷 なるほど。興味深いです。中学校以後の森口くんも楽しみですね。

森口 僕も、行けるところまでは行ってみようつもりです。

インタビュー2016を終えて

今年の湧学館は、今から約40年前に京極町で発行されていた『京極文芸』という同人雑誌の復刻を行っています。皆さんの父母、祖父母にあたる人たちが若くて元気いっぱいだった40年前の京極。当時の小学生や中学生も登場する珍しい雑誌ですので、ぜひ一度目を通してみてください。スマホもケータイもLINEもない、パソコンもビデオもゲームもない世界の「京中生」ってどんなだろう？ 一見の価値あり、と思います。

大げさかもしれないけれど、昔の本を復刻していると、人間の幸せって何だろうと考えたりしますね。私は、40年後の皆さんの子どもたちが、この「京中生インタビュー」を読んでうれしい気持ちになることを願っています。

(新谷)



細川遙太くん(2年)「悲しみの底で猫が教えてくれた大切なこと」 村上大成くん(3年)「永遠の0」

——『悲しみの底で猫が教えてくれた大切なこと』、本よりも、細川くんの読書感想文の方がおもしろかった。

細川 本屋さんのベストセラー・コーナーにこの本があり、気になって見たら面白そうでした。

——本の帯の文句にも「電車の中では読まないでください。ラスト30ページ、衝撃の結末に号泣しました(34歳・女性)」とありますが、こういう風に本を紹介されたなら、私はひねくれているから読もうとしなかったでしょうね。

細川 本の中の猫たちが心に問いかけてきたことを自分なりに整理して考えてみました。

——そこがユニークなんです。

細川 「あなたはなぜ生まれたの？」など五つの問に分けて、その一つ一つに自分が感じたことを書きました。うまく書けたこともありますし、今は答えが出せなかったところもあります。でも、何度でもこの問いかけに戻って答えを探そうと思います。

——『永遠の0』は読みました？

細川 映画で観ています。

村上 僕は映画、本の両方です。

——根強い人気ですね。去年の読書感想文コンクールでもこの『永遠の0』で二人が同時入賞していますし、今年も入賞者が出た。後から振り返ると、なにかこの世代というか、この時代を示すキーワードになる本かもしれません。本でも映画でもいいのですが、印象に残った場面とか人物とかありますか。

細川 僕は宮部久蔵が特攻して行く時の作戦が印象に残りました。あの、敵のレーダーにひっかからないように海上すれすれを飛んで行く…という。

——優秀なゼロ戦パイロットだからこそ成しうる技なのに、それが使われたのは死ぬための特攻作戦であったという、あの戦争の最大皮肉ですね。



「悲しみの底で猫が教えてくれた大切なこと」瀧森古都／著（SBクリエイティブ，2015）
「永遠の0」 百田尚樹／著（太田出版，2006）

村上 映画の中で、宮部の戦友たちがとんどん死んで誰もいなくなっていく映像がショックでした。明日も知れない特攻隊員なんだから「餅くらい腹いっぱい食べろ」と騒いだ兵士たちのために餅を用意したけれど、みんな特攻で死んでしまって、余った餅がいっぱい残っているという光景が強く印象に残りました。

——それは小説の方にはない、映画独特の表現ですね。そういえば、村上くんの感想文にはちょっと鋭いところがあるんです。村上くん、『永遠の0』を読むきっかけは宮崎駿のアニメ『風立ちぬ』だったと書いていますね。

村上 そうです。『風立ちぬ』を観て、ゼロ戦を作る方の思いを知ることができたので、今度はゼロ戦に乗る側の思いを知りたいと思いました。

——そこを読んで「あっ」と思いました。『風立ちぬ』、私も観ているんですけど、名機ゼロ戦の設計者・堀越二郎に宮部久蔵を重ね合わせて考えるということにはなかったなあ。でも、言われてみれば二人は似ているんですね。ゼロ戦というものを通じて、作ったり乗ったりすることが単なる任務（仕事）じゃなくて、自分の人生を生きる意味そのものに変化しているところが。

村上 僕たちが今生きている平和な世の中は、彼らの大切な命の犠牲の上に成り立っていることを絶対に忘れてはいけなと思います。



発行

京極町生涯学習センター湧学館
〒044-0101 京極町字京極158番地1
TEL 0136-42-2700(代表)
FAX 0136-42-2032
E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください
<http://lib-kyogoku.jp>



展示中です



平成28年度版「北海道青少年のための200冊」が選定されました。湧学館では『幼児・小学生の部』『中学生の部』で選ばれた本を展示しています。「高校生・勤労青年の部」を含め、湧学館の所蔵確認ができる一覧を配布していますので、夏休みの読書の参考にご利用ください。所蔵のない本はリクエストをお待ちしています！

京極読書新聞は
毎月1日発行予定です

